

剣風



事務局 〒330-0074
さいたま市浦和区北浦和5-6-5
浦和合同庁舎4階
Tel (048)834-8869
Fax (048)834-8879
<http://www.saitama-kendo.or.jp>
(編集責任者 浅見真一)

第18号 令和4(2022)年2月1日発行 (題字 元会長 野澤 治雄)

郷土の偉人から日本の偉人へ 「渋沢栄一」その人物像

渋沢栄一記念館 菅原 政昭
(資料解説員)

2021年大河ドラマの主人公であり、2024年発行の新1万円札の顔となった渋沢栄一。郷土の偉人から全国に知れ渡り、名実ともに日本の偉人となった。その生涯は一言で表すならば500余りの会社設立や、600ともいわれる社会公共事業に関わったことから近代日本資本主義の父と言われる。

今、なぜ渋沢栄一が注目されているのであろうか？

開国が攘夷かで揺れ動く幕末の動乱期、明確な目標(志)を持ち、私益より公益を重視し、日本の近代化に尽くしたその功績はあまりにも偉大であるが、そのベースに論語(道徳学)を置き、実践していったことが注目されているのではないか。

渋沢栄一は天保11年(1840年)埼玉県北部、榛沢郡血洗島村(現深谷市血洗島)に生まれた。3歳頃から父親に「論語」などを学んだが、7歳頃からは従兄の尾高惇忠より本格的に四書五経と言われる漢籍を学んだ。とりわけ「論語」は後に栄一の生涯にわたる「経営理念」につながっていく。

尾高家の母屋前には長屋があり、作業場と共に剣道場があった。栄一はここで剣道の稽古もしているが、指導者の中に川越藩横沢村(現坂戸市)神道無念流の大川平兵衛の名が見られる。栄一は剣士としての所作もここで身につけていったのである。

惇忠の教えの中には水戸学も含まれ、やがて尊王攘夷思想へと変わっていき、文久3年(1863年)高崎城乗っ取り及び横浜外国人居留地焼き打ち計画を謀議するなど無謀な行動も見られたが、郷里を出奔後栄一の人生は大きく変わっていくことになる。

故郷を離れた栄一はかつて知己を得た平岡円四郎のはからいで、一橋家に士官することとなった。生涯の主君ともいえる慶喜公との出会いである。

世の中が大きく変わろうとする中、一橋慶喜は15代将軍となった。思いもかけず栄一は幕臣となってしまった。かつて倒幕を志した者が幕臣である。辞職を考えた栄一だが、降って湧いたように将軍の弟、徳川明武に随行してパリ行きを命じられた。このパリをはじめとするヨーロッパの見聞こそ近代日本資本主義構築のヒントになっていったものと思われる。

ヨーロッパには33名が同行したといわれている。栄一だけが突出して名前を残した。この事実をどう見るかであるが、驚きと共に問題意識を持って見聞したのではないか。水道やガス燈、スエズ運河の大プロジェクトなど次々と見聞するが、これらの仕組みを自らの目で確かめ、或いは質問をし、しっかりと書き留めている。これはやがて日本における近代化へのヒントになっていく。

この当たり前とも思える、書き留める(日記をつける)などの習慣は幼い頃から培われていたのではないか。自分の記憶力醸成は「吾、日に三たび我が身を省みる」と、この論語で我が意を得たりとし、一日の総点検をしてから就寝していたと晩年述べているが、「当たり前のことを当たり前にできるようにする」この平凡とも思える習慣化こそが栄一をして、大実業家への土台なのだ。

栄一の名言ともいえるべき「士魂商才」という言葉があるが、武士の魂をもって商才を発揮するという意味である。即ち礼や義の精神をもって実業にあたれと言っているのにほかならない。忘れかけている日本人の原点ではなかろうか。

令和3年度大会記録

(県内)

◆全国健康福祉祭剣道交流大会予選会 (4月4日・県武道館)

- ▽先鋒 柿沼日出美(熊谷) ▽次鋒 渡会秀一(北本)
▽中堅 中山良彦(熊谷)
▽副将 穂谷野一敏(上尾) ▽大将 島村勉(羽生)

◆都道府県対抗女子剣道優勝大会予選会 (4月4日・県武道館)

- ▽先鋒 永野江里(東農大三) ▽次鋒 秋庭紗理愛(大学) ▽中堅 志藤綾子(東松山)
▽副将 本郷利枝(高校) ▽大将 渡邊衣里(浦和)

◆高校剣道関東大会予選個人 (4月26日・上尾運動公園)

- ▽男子 ①小林遼太郎(本庄第一) ②鴨木(本庄第一) ③久保(本庄第一) ④新井(県松山)
▽女子 ①永野江里(東農大三) ②岩本(本庄第一) ③河端(川口市立) ③青沼(埼玉栄)

◆高校剣道関東大会予選団体 (5月10、11日・県武道館)

- ▽男子 ①本庄第一 ②埼玉栄 ③立教新座 ④山村学園 ⑤熊谷 ⑤大宮東 ⑤松山 ⑤城北埼玉
▽女子 ①本庄第一 ②川口市立 ③淑徳与野 ④深谷第一 ⑤埼玉栄 ⑤大宮東 ⑤昌平 ⑤東農大三

◆国体剣道成年の部予選会 (5月15、22日・県武道館)

- ▽女子 先鋒 足立小粋(東松山) 次鋒 本郷利枝(高校) 大将 川崎和子(越谷)
▽男子 先鋒 福居義久(東松山) 次鋒 竹越充(川口) 中堅 橋本桂一(東松山) 副将 石井均(高校) 大将 菊池道隆(高校)

◆都道府県少年剣道優勝大会予選会 (7月17日・県武道館)

- ①前田晃佑(川越) ②鈴木沙樹(加須) ③森本景己(大宮) ④川上裕奈(杉戸) ⑤千葉妃奈乃(上尾)

◆学徒総合体育大会中学剣道 (7月18、27、30日・県武道館)

- ▽女子個人 ①中村陽向(本庄第一) ②伊東葵(春日部大沼) ③伊藤董(春日部大沼)
▽男子個人 ①多並聖生(久喜菖蒲) ②荻谷倅己(さいたま原山) ③黒沢論市(皆野)
▽女子団体 ①春日部大沼中 ②本庄第一中 ③北本中 ③朝霞第二中
▽男子団体 ①本庄第一中 ②朝霞第二中 ③北本中 ③皆野中

◆埼玉県女子剣道選手権兼全日本女子選手権予選 (7月23日・県武道館)

- ①北條李華 ②小川真英 ③志藤綾子 ③石川万尋
※白抜き数字は全日本選手権出場

◆埼玉県高齢者剣道大会 (7月23日・県武道館)

- ▽60～65歳未満 ①渡会秀一(北本)
▽70歳未満 ①中山良彦(熊谷)
▽75歳未満 ①館田清二(所沢)
▽75歳以上 ①渡辺秀男(東松山)

◆四地区対抗親睦剣道大会 (8月8日 県武道館)

- ①西部地区 ②東部地区 ③南部地区 ④北部地区

◆埼玉県剣道選手権兼全日本選手権予選 (8月27日・県武道館)

- ①足立柳次 ②精松慎治 ③泉英太 ③福居義久
※白抜き数字は全日本選手権出場

◆埼玉県剣道大会 小学生の部 (10月2日・県武道館) 個人戦

- ▽五年生 ①大野勝輝(北本) ②野沢遼己(北本) ③前田宇妙(川口) ③矢吹わかば(川口)
▽六年生 ①稲川慶亮(狭山) ②森本景己(大宮) ③押田悠希(春日部) ③川上裕奈(杉戸)

団体戦

- ①越谷 ②川口 ③上尾 ③春日部

◆埼玉県剣道大会 高校生の部 (11月17日・県武道館)

- ▽男子個人 ①久保冬晟(本庄第一) ②新井海渡(松山) ③鈴木雅(山村学園) ④小寺純平(埼玉栄)
▽女子個人 ①柳菜々海(淑徳与野) ②森柚乃(本庄第一) ③飯塚美咲(星野) ④藺田なつき(熊谷女子)

◆埼玉県剣道大会 一般の部 (11月23日・県武道館)

- ▽女子の部 ①宮沢彩夏(警察) ②加藤順子(北本) ③志藤綾子(東松山) ③工藤礼佳(東松山)
▽初段～四段の部 ①福居義久(東松山) ②生沼新(警察) ③鈴木悠誠(北本) ③大野雄大(久喜)
▽五・六・七段の部 ①佐々木優人(朝霞) ②田島純一(警察) ③益子貴義(警察) ③竹内佑樹(高校)

(関東・全国)

◆全国高等学校定時制通信制剣道大会 (8月3日 奈良市)

- ▽女子団体 優勝 大川学園高等学校(福島 鈴木 福島 高田)
▽女子個人 優勝 福島萌々(大川学園) 三位 福島珠々(大川学園)

◆関東中学校剣道大会 (8月2・3日 群馬県)

- ▽女子団体 優勝 春日部大沼中(中嶋 伊東 貝山 伊東 松井 矢内 乾)

◆全国中学校剣道大会 (8月20～22日 神奈川県)

- ▽女子団体 三位 春日部大沼中(中嶋 伊東 貝山 伊東 松井 矢内 霜山)

◆全日本女子剣道選手権大会 (9月19日 奈良県)

- 二位 志藤綾子

全日本女子剣道選手権大会（9月19日 奈良県）

伊田テクノス株式会社 志藤 綾子

去る9月19日に奈良県橿原市で開催されました第60回全日本女子剣道選手権大会において、埼玉県の諸先生方はじめ、日頃お世話になっているたくさんの方々のお陰で準優勝することができました。

今回は、各県の警察官が出場しない中で、学生や自分よりも年齢が若い選手が多く出場する大会となり、顔ぶれを見たときには、勢いに負けるのでは…と不安のほうが大きかったように思います。しかし、予選が終わってから大会までの日々はコロナ禍ではありましたが、会社の稽古も感染対策をしながら行われていましたし、現在指導に携わらせていただいている大東文化大学でも稽古が行えておりましたので、少しでも防具を付けて稽古をしようと心掛け、先の勝ち負けよりも、今自分ができることを精一杯やって大会に臨もうという前向きな気持ちになれました。このような状況の中でも、通常通りではありませんが稽古が行える幸せな環境ににいることに本当に感謝の気持ちしかありません。

大会までの稽古で技術的に意識をしたところは、鏑迫り合いになった瞬間にできるだけ技を出すことと後打ちをすることです。コロナ禍で暫定的なルールの導入がある中ですが、一瞬の隙を与えないように、むしろ自分が相手の隙を打てるよう、今までルールに甘えて一番気を抜いていた所を意識して地稽古などを行いました。一本にならなくても、少しづつ嫌なところを触られることで精神的に不安になることは自分自身にも経験があることなので、細かい部分ではありますが意識をして行いました。

私は光栄なことに、今回の第60回大会で6回目の出場をさせていただきました。過去5回は長野県での開催で、今回から奈良県橿原市に会場が変わりました。7月に開催された都道府県対抗も同じ会場で行われたので雰囲気や場所は分かっているつもりではいたのですが、前日の選手打ち合せから、やはり7月とは全く違う雰囲気で、ましてや自分よりも年齢が若い選手が多い中でやるんだと実感をしてから少し緊張したのを覚えています。

大会当日は、不安なことや緊張もありましたが、やはり一番は自分らしく悔いが残らないように試合をすることだと思ったので、周りのことは気にせずに開き直ってアップから臨もうと思いました。準決勝までは、試合中に頭の中で、冷静に相手の動きを考えられるくらいの心の余裕があり、落ち着いて試合ができました。その結果、気付けば決勝、残り一試合になっていました。決勝の相手の妹尾選手との試合は、恥ずかしながら何もできなかったという感想が一番です。どうやって戦えばいいのだろうかと考えているうちに試合が終わってしまいました。しかし、今後の日本代表のエースとして戦っていく選手と、あの決勝の舞台で戦えたこと、それが私にとっての大きな財産になる経験をさせてもらったと思います。悔しくないと言われれば、全くないわけではありませんが、今の自分の実力はここまでだったと素直に思える相手だったと感じています。

私は高校・大学と目立った成績を出すことができませんでした。しかし、ご縁があり今の会社に入社をして剣道部に入り、埼玉県で剣道をさせていただくようになってから、ここまで剣道人生が大きく変わるなど想像もしていませんでした。それもこれも、先生・先輩方や一緒に剣道をする仲間のお陰で間違いありません。稽古をお願いすれば熱いご指導をいただき、プライベートでも相談にのっていただいたりとたくさん支えていただきました。そんな方々が私の周りにはたくさんいてくださるお陰で今日まで剣道を続けてこれたとも思っています。大会終了後も、たくさんの方々からご連絡いただき、お会いした際にもお声をかけていただき、本当に幸せに思います。その気持ちを私自身が絶対に忘れることなく、また次の目標に向かって歩んでいきたいと思っています。

最後になりますが、本来であればご指導いただいた先生方始めお世話になった方々に直接お礼に伺わなくてはいけないところですが、この場をお借りして御礼申し上げます。そして、今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。ありがとうございました。



栄冠を目指して

埼玉県立羽生高等学校 伯耆田 茜



2021年8月3日、全国高等学校定時制通信制剣道大会が奈良県で開催されました。その大会の女子団体戦・女子個人戦において優勝をすることができました。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で大会が開催されなかったものの、女子団体戦は3連覇を成し遂げることができました。

2019年から羽生高校に赴任し、定時制通信制課程の生徒たちと関わるようになりました。剣道部を持たせてもらい、初めての全国大会の予選に行った時のことは忘れません。全日制の大会と違い選手も少なく、大会も学校の道場を使用し開催されます。また、全日制の全国大会は学校単位で

出場しますが、定時制通信制の大会は「埼玉県」として出場するなど全日制との大きな違いに驚きました。しかし、剣道にひたむきに向かう姿は全日制の生徒たちと変わらず、この大会に懸ける選手たちの姿に心を打たれました。

今年度も全国大会予選を終えてから全国大会までの約3か月、出場の決まった選手たちが集まり合同稽古を行いました。選手たちは全国大会に向けて一生懸命稽古に励み、たくさんの先生方にご指導いただき、支えられながら当日を迎えることができました。

新型コロナウイルス感染症の影響で選手の出場が少なかった影響もあり、2人で出場するチームが多く、団体戦では決勝まで3人で戦うことがありませんでした。しかし、選手たちは一人一人が『チームのために戦っている』ということを感じた試合ばかりでした。最初はごちなかったチームも決勝戦を迎えるころには、一体感が出て素晴らしいチームだと感じました。選手たちは大人しく、優勝しても大騒ぎして喜ぶことはありませんでしたが、試合終了後はとても笑顔がこぼれていました。その姿を見て、私自身、感動させてもらいましたし、この選手たちと一緒に戦うことができ良かったと本当に感じました。

今年度の全国大会では、優勝という最高の成績を残すことができました。しかし、これに満足することなく選手も私自身も努力を重ねていきたいと思っています。埼玉県の強みはチームで戦うことができるところです。一緒に参加した男子のチームも予選で敗退した後、全力で女子チームを応援してくれました。また、合同稽古会では、選手以外の生徒も稽古に参加し試合練習や自稽古をやってくれました。また、全日制の生徒のみなさんも稽古や試合をして応援してくれたと感じています。

今回全国優勝は、選手・監督・スタッフが全国大会に向けて万全の準備を怠らなかったことに加え、色々な方に支えられ勝ち取ることができたと思っています。感謝申し上げます。

これからも努力と謙虚さを忘れず、埼玉県チームとして女子団体4連覇という大きな目標に向けてさらに稽古を積んでいきたいと思っています。

全国中学校剣道大会 女子団体 3 位

春日部市立大沼中学校 剣道部顧問 松田 昂也

8月20日から神奈川県川崎市とどろきアリーナで開催されました、第51回全国中学校剣道大会に女子団体並びに女子個人戦に本校は埼玉県代表として出場させていただき、女子団体において、「全国大会3位」の結果を残すことができました。まずはコロナ禍ではございましたが、無事に大会を開催してくださりました各関係者の皆様には心から感謝申し上げます。

昨年度は学校が休校、そして様々な大会が中止となり、満足の稽古をすることができない状況が長いこと続きました。苦しい期間がありましたが、選手達は誰一人として目標を見失うことなく、入学当初から掲げていた「日本一」になるために、ブレることなく限られた練習に励むことができていました。最後まであきらめずにやり続けることができたことが、全国大会の結果に繋がったと思います。また、選手がここまで目標に向かい全力で取り組むことができたのは、周りの方がたの応援があったからこそだと感じています。今回の全国大会に向けて、我々大沼中学校は今まで以上に「感謝」の想いを大切にすることを意識することになりました。

常に寄り添って応援していただいた保護者の皆様。日頃からお世話になっている道場の先生方。常にライバルであり、仲間でもある埼玉県中体連の先生方。これまで指導してくださり、最後まで応援してくださる学校関係者の皆様。私たちを育ててくださった埼玉県の、たくさんの応援があったからこそ、全国大会での結果に繋がったと実感しております。これまで培われた絆は大沼中の強さになりました。この先も「日本一」の目標を持ち、現状に満足することなく稽古に励みたいと思います。

今まで選手を支えてくださった各関係者の皆様、本当にありがとうございました。皆様のおかげで、大沼中学校はこの夏を最後まで闘いぬくことができました。心より感謝を申し上げます。



「我が師を語る」 ―剣道師範 勝谷春助先生―

剣道 教士七段 青 葉 元由紀

埼玉県剣道連盟から原稿を依頼されましたが、師が逝去され既に53年になり、また私も高齢の年齢と時の経過とともに記憶が薄らぎつつありますので、当時、警察本部教養課に在職中の昭和57年に埼玉県剣道連盟において30年史編集委員会が設置された折り「警察支部においても剣道関係の諸資料をこのまま放置しておいては貴重な歴史が散逸してしまうので、これを機会に一冊の本にまとめてはどうか」と言うことで平成元年3月1日発行の「埼玉県警察剣道30年史」を編集したのを思い出し、これを参考にしてペンを走らせて戴きます。

現在、勝谷春助先生と言っても知っている方は剣道に携わっている方でも限られた人たちだと思いますので簡単に紹介します。

当時、埼玉県警察では剣道の指導者はおらず、熊谷市在住の一般の剣道の先生が警察学校の学生の剣道指導と警察部内の大きな各種剣道大会に出場する選手の指導・監督を兼任していました。

勝谷春助先生は三重県出身の国士舘大学校第2期生で三重県警察から昭和29年に本県警察本部の剣道師範として着任されました。

当時は特別強化訓練員制度は確立されておらず、先輩方の話によると昭和30年頃は警察署長クラスの有段者が勤務の傍ら大会数日前の稽古で大会に出場と言うアマチュア的存在であったようです。

私が勝谷先生に初めて接したのは昭和34年9月30日に所沢警察署から機動隊に異動し、勤務の傍ら各種警察剣道大会出場選手の強化選手要員として現在の埼玉県庁第二庁舎隣接の武徳殿での稽古に参加した時からであります。

勝谷先生は長身で恰幅がよく多くを語らず、当時の稽古は互格稽古、指導稽古と打ち込み掛かり稽古が主で、私は剣道3段で先生に稽古をお願いすると先生はジリ、ジリと中心を攻めて前に出てくるので仕方なしに横にクルクル回ると「クルクル回るな、我慢が大事だよ」と言われ、仕方なしに（ヘッピー腰で）面を打って出ると「手で打つな足で打て、足で打つな腰で打て、いいか最後は腹で打て」と指導されました。

昭和36年度の関東警察剣道大会（当時この大会は皇宮警察を含めて12チーム持ち回り）で全国警察大会の予選も兼ねていました。

その年は群馬県で行なわれ私も先鋒として出場し我が埼玉県チームが第5・6位決定戦で勝ち、初めて全国大会の出場権を獲得し、勝谷先生が大変喜んでいた姿が忘れられません。

昭和39年大阪万博開催年の3月に大阪府警察に5名（町田智是氏、野澤治雄氏、根岸一雄氏、清水祐介氏と筆者）が6カ月間長期派遣訓練を命ぜられ、朝、午前、午後、夜稽古と厳しい訓練に耐え見事関東警察剣道大会B組で初優勝しました。

以来、訓練期間も多くなり、春には警視庁、皇宮警察の他剣道部のある大学校へ電車や出勤車で出稽古に行きとても厳しい毎日でありました。

特に警視庁の訓練は厳しく道場の隅に逃げ回っていましたが、監督の勝谷先生は中央の元立ちの先生に



稽古の他終わりに掛かり稽古と切り返しをされ、私たちに身をもって無言で指導して下さいました。

またこのような事もありました。それは、昭和41年には勝谷先生引率で13名が（静岡、滋賀、三重、大阪、岐阜、愛知、和歌山）の各府県警察に1週間の長期遠征訓練に行きましたが列車で移動の折り、デッキで練習試合で負けて萎れていたところ勝谷先生が見えて、青葉（ジュース、饅頭はたまに食べるから旨い）これを365日ご飯や飲み水として三度々飲み食いしたら飽きるいいか（米、水）だよ。相手に「色」を見せて打ち合うようでは伸びないよ。「真っ向から打ち当たって勝負しろ」と言われ貴重なご指導を戴きました。



昭和42年には静岡県警察から剣道師範として市川彦太郎先生が着任され、二人の先生にご指導を戴くことになり、また特別強化訓練員の練習時間と稽古内容が充実したことで関東警察剣道大会 B組で2回目の優勝を果たすことができました。

この頃、勝谷先生は眼の病気を患っており片目が見えない状況で元に立ち指導をして下さり、後年には上段をとるようになり構えられると身動きができない程で打ち込むことができませんでした。

一方、部外では、埼玉県剣道連盟の審査員、審議員を歴任し、全国規模の部外大会に選手として出場その他、昭和42年の埼玉国体剣道競技一般の部で監督として出場し見事優勝を果たしました。

当時、先生は警察剣道はもとより多くの民間の剣道愛好者の方々にも親しまれ、これからの埼玉県の剣道発展に寄与活躍を期待されておりましたが、昭和43年4月5日59歳の若さで亡くなられたことは誠に残念でなりません。



「青少年指導実践事例」



埼玉県高体連定時制通信制部剣道専門委員会の活動について

埼玉県立羽生高等学校 永野 雅大

1、御挨拶と御礼

この度、青少年剣道育成強化実践事例として、定時制通信制（以降定通制）の活動を取り上げていただき、誠にありがとうございます。近年、剣道専門委員会では直近三回の全国大会の結果において、女子団体が三連覇、男子団体準優勝一回、女子個人1位二回と好成績を残すことができました。これも偏に、平素より定通制の子供たちに温かい御支援をくださる埼玉県剣道連盟の先生方、同じ高校生として交剣知愛の輪に入れてくださる全日制の高体連剣道専門部の先生方、地域の道場の先生方のおかげであると深く感謝申し上げます。今紙面を機に定通制の活動について御理解をさらに深めていただき、皆様の剣道の輪を広げる一助となれば幸いです。

2、定時制通信制教育について

定通制の学校とは、様々な困難を抱えた生徒が高校卒業の資格を取るために通う学校であると理解しております。大きな特徴の一つ目に授業の時間帯があります。定時制学校の代表的な特徴として17時～21時の夜間授業を想像されるかと思います。近年では多様なニーズに応えるために昼夜開講型という、全日制と同様の9時～17時までの昼間授業が展開される学校もでき、様々なニーズに対応しています。私が勤務している羽生高等学校も昼夜開講型の学校の一つです。

大きな特徴の二つ目に様々な生徒がいることです。戦後、労働者が不足している我が国で、働きながらも学校に通えるように定通制学校が創設されました。近年では、時代の変化によって不登校等で学校にいけない子や特別な支援を要する子、全日制の高校を退学せざるをなくなってしまった子などの受け皿にもなっております。生徒の年齢層は幅広く、中学校を卒業後就職し、時間が経ってしまったが、高校を卒業したいという方もいます。現在、羽生高等学校の部員の一人は外国籍の生徒です。このように学校に通いたいという思いのあるすべての方々に門戸が開かれています。

以上のような特色のある学校の中で、教育活動の一環として部活動が行われています。

3、埼玉県高体連定時制通信制部剣道専門委員会の活動について

私たちは「剣の道の修練による人間形成」を目的に「交剣知愛」の精神のもと「全国大会上位進出」・「昇段審査合格」を目指して活動をしております。大会等の年間スケジュールは以下の通りです。

- <5月> 全国大会県予選大会（全国大会選手決定）
- <6月> 全国大会に向けた定通制合同稽古会（計6回）
- <8月> 全国大会（日本武道館）
- <10月> 県民スポーツ大会
- <1月> 新人戦

以上の活動を主軸にしております。

大目標の全国大会団体戦では、各校の選手が団体チームを組むため、学校の垣根を越えた関わりが必要となります。





そのため、5月の大会の結果や稽古への取り組み等を鑑みて選手を選考し、選ばれた選手を中心に全国大会へ向けた合同稽古会を行います。各校が一体となって全国大会に向けて稽古を積む機会があるのも特色の一つです。大会、合同稽古会には定通制の先生方をはじめ、全日制の高段位の先生方から専門的な指導を受けることができます。また、全日制の生徒にも参加していただき、練習試合を

行っています。

全国大会は8月上旬に日本武道館で行われます。(今年はオリンピックの関係で奈良県開催)団体戦は男女A・Bチーム、個人戦は男女各4名ずつ参加できます。会場近くのホテルに選手全員で前泊しアップやミーティング等を行い、大会に臨みます。全国大会は一日のみの開催のため、午前に個人戦、午後に団体戦を行い、日本一を争います。選手にとって、憧れの日本武道館で試合をすることは一生の思い出になっています。

上記の大会以外にも、昇段審査や全日制高校との練習試合等も行っています。昇段審査には、地域の道場に先生方の御理解と御協力によって加盟させていただき、受審しております。入学時までには段を取得しているものは三段に挑戦し、初心者の方は二段合格を目指し取り組んでいます。全日制高校との練習試合等については、高体連剣道専門部の先生方に「同じ高校生」として声をかけていただき、技能向上、交剣知愛と高校生同士の交流も盛んに行われています。これらの地域の道場との交流、全日制高校との交流も特色の一つであると考えています。

4、定通制教育と剣道専門委員会の活動についてのまとめ

私は全日制の高校から大学に進学し、卒業後教員となって定時制の羽生高校に勤務しました。定時制について「名前だけ聞いたことがある」・「夜に授業をしている学校」程度の知識しかなかったのを覚えています。しかし、実際には定時制通信制学校を必要とする生徒、地域の方々が多くいらっしゃることに身をもって実感しております。今年度で勤務4年目になりますが、一般の剣道の方から定時制学校についてご質問をしていただいたり、高校を辞めなくてはならないが定時制で剣道は続けたいという高校生がいたり、小中と剣道を続けてきたが定時制学校でも剣道ができるかとお問い合わせいただく機会があります。これはもちろん剣道に限らず、定通制サッカー部や野球等でも同様で、剣道振興のために多くの方々に認知していただく必要性を感じています。



私たち専門委員会は、定通制高校への進学等を理由に剣道を諦めなくてはならない生徒を減らせるようそのニーズに応え、同じ剣の道で修行する身として子弟同行を肝に銘じ、日々切磋琢磨しております。そして、人格の完成をめざす教育の目的に向けて、剣道という手段を通して携われることに感謝しております。

最後になりますが、改めて日頃より私たち専門委員会の活動に埼玉県剣道連盟の先生方、全日制の高体連剣道専門部の先生方、地域の道場の先生方をはじめとする多くの方々からの寛大なご配慮を賜っておりますこと拝謝いたします。今後ともより一層の御指導と御鞭撻をお願いいたしまして御報告といたします。

令和2年度後期～令和3年度 剣道・居合道・杖道称号、段位取得者一覧

剣道教士

〈令和2年11月24日〉

小島 好行(草加)
荒川 由則(吉川)
悦規 俊介(吉川)
関口 豊(春日部)
橋本 雄二(春日部)
瀧澤 晃(久喜)
藤原 康人(幸手)
門井 五雄(加須)
三國 健敏(行田)
鈴木 康高(行田)
杉山 正浩(狭山)
柳澤 哲夫(狭山)
齋藤 雄一(入間)
青木 稔(飯能)
星川昇二郎(西入間)
仲島 昭靖(西入間)
矢野 圭介(東松山)
渡邊 恵一(東松山)
勝岡 伸圭(東松山)
三宅 秀明(東松山)
杉山 良一(小川)
桐越 拓也(川口)
水本 吉昭(川口)
佐藤 幸喜(川口)
小谷 彰治(川口)
里村 豊(川口)
東條美江子(川口)
中川 剛(浦和)
伊藤 将人(浦和)
山崎 浩(鴻巣)
岡山 隆一(熊谷)
松下 時紀(熊谷)
堀口 文彦(熊谷)
田代 啓之(熊谷)
土屋 主税(深谷)
新井 享(深谷)
田中 和子(本庄)
鈴木 誠(秩父)
足立 孝明(小鹿野)

〈令和3年5月3日〉

西元 久和(春日部)
川崎 淳志(杉戸)
荒井 貴子(久喜)
鈴木 宏和(久喜)
大場 洋紀(久喜)
鈴木 潤(所沢)
北村 重太(狭山)
榎本 学(西入間)
柳田 朗(川口)
宇田川智弘(川口)
内田 龍介(蔵)
小川 高鋭(戸田)
川上 邦元(戸田)
新井 誠治(朝霞)
布施 誠(浦和)
高橋 了(浦和)
岡田 清(上尾)
吉田 潤(北本)
矢部 利人(北本)
加藤 喜大(小鹿野)
新井 辰司(小鹿野)
藤林 洋平(高校)
國玉 充(東松山)

〈令和3年11月23日〉

長 大輔(春日部)
染谷 敏明(杉戸)
大山 光洋(杉戸)
松尾 守(東入間)
関根 忠則(飯能)
岡野 邦雄(東松山)
松本 光正(東松山)
栄花 友彦(東松山)
古屋 俊一(小川)
井上 章人(大宮)
佐久間 洋(熊谷)
児玉 敏夫(深谷)
清水 務(寄居)
宮下 公成(寄居)
松下 雄宏(高校)

居合道教士

〈令和2年11月24日〉

須田美佐江

剣道錬士

〈令和2年11月24日〉

大熊 俊彦(草加)
植村 寛治(草加)
中村 則子(八潮)
河股 伸行(越谷)
大橋 一男(越谷)
鈴木 宏和(久喜)
大場 洋紀(久喜)
戸賀崎正彦(久喜)
澁江 宏之(久喜)
矢部三十四(所沢)
赤沼 康弘(所沢)
金子 元亮(東入間)
小林 拓也(狭山)
林 隆久(入間)
吉田 勉(入間)
小畑 政幸(西入間)
関口 大輔(東松山)
山口 義測(東松山)
石井 貴之(東松山)
米津 尚夫(東松山)
小薬 義行(川口)
市川 貴之(川口)
大森 明彦(川口)
和田 進吾(朝霞)
中西 康太(朝霞)
小泉 達彦(朝霞)
奈須川伸一(大宮)
細田 哲(大宮)
川村 潤二(大宮)
碓 誠基(大宮)
五頭 英明(大宮)
岡田 光弘(上尾)
関根 秀和(北本)
上野 哲平(北本)
丹治喜代美(北本)
大野美紀子(北本)
佐々木有美子(北本)
山下 未来(本庄)
柏葉 靖夫(秩父)
三上 孝(秩父)
齋藤 衛(高校)

〈令和3年5月3日〉

松本翔太郎
杉山 伸和
古屋 大樹
岩田 卓巳
内田 雄二
安澤 健則

〈令和3年5月3日〉

松村 哲延(越谷)

伊東 真照(越谷)
廣田 一尚(越谷)
中島 勝男(越谷)
八代 英紀(吉川)
横井 一元(春日部)
有川 英子(加須)
佐竹 康彰(戸田)
鮎川 剛彦(大宮)

〈令和3年11月23日〉

鈴木 智琴(八潮)
秋山 博之(春日部)
藤間佳津馬(久喜)
遠藤 健志(所沢)
本多 和弘(西入間)
平出 壮司(川口)
山倉 真二(川口)
藤井 基弘(朝霞)
村岡布三佳(浦和)
栗田 敏光(大宮)
越川 信一(大宮)
漆畑 昇(大宮)
田志 智成(大宮)
栗原 雅行(上尾)
渡辺 雄二(上尾)
持田 祥宏(深谷)
大隈 正平(高校)

居合道錬士

〈令和2年11月24日〉

阿部 好弘
大平 明範
原 登美子

〈令和3年5月3日〉

松本翔太郎

〈令和3年11月23日〉

杉山 伸和
古屋 大樹
岩田 卓巳
内田 雄二
安澤 健則

剣道7段

〈令和2年11月24日(東京)〉

國吉 聡史(越谷)
山田 史和(吉川)
寒川 聡(飯能)
長谷部太郎(浦和)
鮎川 剛彦(大宮)
城所真由美(大宮)
金井 裕(北本)
小島 俊夫(秩父)

〈令和2年11月25日(東京)〉

関根 光夫(杉戸)
松山 和人(杉戸)
久保田康規(久喜)
針ヶ谷正俊(加須)
伊藤 誠(狭山)
澁川 忠明(大宮)

〈令和3年2月(長野)〉

松村 哲延(越谷)
牛山よし子(草加)

戸賀崎正彦(久喜)
松倉 正典(加須)
鈴木 聡(朝霞)
栗原 謙二(浦和)
代 利夫(鴻巣)

〈令和3年4月30日〉

小田井貞雄(川口)

〈令和3年5月15日(愛知)〉

田宮 正美(加須)
須角屋 弘(東入間)
梶原 道德(狭山)
堺 恭規(川越)
田島 治夫(西入間)
片岡 信行(東松山)
小室 次雄(蔵)
上村紳一郎(朝霞)
高橋 守(本庄)

〈令和3年8月〉

池田 省吾(越谷)
並木奈美恵(所沢)
樋村 裕之(狭山)
野口 達雄(西入間)
中村 哲(東松山)
秋山 匡伯(東松山)
栄花 元春(東松山)
陸名 勝尋(小川)
中嶋 宏幸(朝霞)
谷之口一彦(浦和)
中村 亮(大宮)
小林 芳弘(上尾)
原口 良一(熊谷)

〈令和3年11月13日(愛知)〉

前田 信一(越谷)

〈令和3年11月23日(東京)〉

高橋 幸一(草加)
中西 直子(越谷)
中山 英宣(狭山)
鈴木藤五郎(川越)
齋藤登美夫(小川)
内田 宏(川口)
渡邊真太郎(朝霞)
椎屋 博光(大宮)
細田 哲(大宮)
石井 宏(北本)
藤井 長平(本庄)
濟藤 岳人(警察)

〈令和3年11月24日(東京)〉

葛西 律子(草加)
榊原 亮平(草加)
小宮 知幸(八潮)
佐々木 守(越谷)
釜下 基(吉川)
澁谷 裕貴(久喜)
諸岡 正芳(幸手)
石井 和子(幸手)
臺 克幸(加須)
落合 正春(所沢)
城 孝男(狭山)
山木 賢蔵(川越)
速水 信明(川越)

片岡 祥子(東松山)
山口 英邦(川口)
柳澤 昌秀(上尾)
福島 博久(北本)
坂元 智(北本)
阿部 公德(熊谷)
本郷 利枝(高校)

居合道7段

〈令和2年11月8日(東京)〉

松本 隆二

〈令和3年6月25日(大分)〉

大森健一郎

〈令和3年11月7日(東京)〉

奥原 茂弘
島村 公平
北條 元晴
中村 芳勝
清水 芳明
瀬川 光二
大竹 譲

剣道6段

〈令和2年11月15日(愛知)〉

安芸 吉晴(行田)

〈令和2年11月22日(東京)〉

成田 章子(春日部)
山崎 智哉(加須)
松尾 節雄(羽生)
五月女一夫(羽生)
小寺 慶祐(所沢)
鈴木 栄子(川越)
齊藤 一貴(西入間)
本多 和弘(西入間)
平出 壮司(川口)
藤井 基弘(朝霞)
平井 鉦二(浦和)
漆畑 昇(大宮)
竹島 俊介(大宮)
越川 信一(大宮)
松本雄太郎(大宮)
渋谷 善明(大宮)
栗田 敏光(大宮)
須賀田晴夫(大宮)
田志 智成(大宮)
石森 誠一(上尾)
栗原 雅行(上尾)
涌井 津吉(上尾)
清水 千聖(高校)

〈令和3年4月30日(京都)〉

大地恒一郎(浦和)

〈令和3年5月16日(愛知)〉

酒井 正二(越谷)
矢敷 理香(吉川)
江原 曉子(春日部)
澁谷 英三(久喜)
佐藤 和紀(浦和)
檜崎健次郎(浦和)
高岸 史弥(大宮)
関口 広美(上尾)

〈令和3年8月〉

田山のどか(川越)
中村 政孝(八潮)
宇佐美美穂(越谷)
池田 和美(越谷)
渡辺 寛志(越谷)
瀬下三樹雄(吉川)
山黒 繁(杉戸)
録澤 明親(久喜)
桐生 貴章(加須)
菅沼 祐介(川越)
仲谷 光弘(飯能)
鹿山 広人(西入間)
磯辺 清(西入間)
伊藤 優樹(東松山)
佐山裕一郎(小川)
毛利上慎吾(朝霞)
古平 昌行(朝霞)
長濱 尚(浦和)
岸 宏昭(浦和)
矢内 匠(大宮)
諸橋 綾子(上尾)
櫛田 温子(高校)
渡會 愛梨(高校)

〈令和3年11月14日(愛知)〉

末田久美人(草加)
松岡 志津(狭山)

〈令和3年11月20日(東京)〉

石川 靈彦(草加)
山中 聖(越谷)
尾崎 定久(春日部)
小泉 良介(久喜)
松田 昂也(久喜)
峰岸 英貴(幸手)
遠藤 正二(加須)
横谷 秀幸(所沢)
佐治 徹一(所沢)
成島 正仁(東入間)
上田 智仁(東入間)
吉澤 達矢(東入間)
笈知 孝浩(川越)
宮崎 信子(西入間)
千葉 敦(小川)
西野 翼(川口)
太田 育代(川口)
古澤 久枝(川口)
田中 一志(川口)
西野 徳志(川口)
大久保雄司(浦和)
井出 智子(浦和)
青木 達朗(大宮)
恩田 智厚(大宮)
八幡 健二(大宮)
樋口 裕大(鴻巣)
山本 澄枝(北本)
佐藤 尚宏(北本)
伊藤 裕太(北本)
神吉 史享(熊谷)
新明 一夫(本庄)
加藤 正史(小鹿野)
山口 雅之(高校)
松寄 慶喜(高校)
高橋 武司(警察)
田島 純一(警察)

足立 柳次(警察)
宮原 良太(警察)

居合道 6 段

〈令和2年11月8日(東京)〉

神谷 昌広
萩原 正道
内田 雄二

〈令和3年6月25日(大分)〉

勅使河原貞
新井 良弘
目黒 碩雄

〈令和3年11月7日(東京)〉

平田 陽介
安藤 貞男
玉手 博子
岸 徳夫
岡元 義人
新井 宏
柏倉 有
平田智恵子
山口日出夫
二瓶 茂
根岸 誠助
加藤 勝
篠宮 源太
飯沼 憲男

杖道 6 段

〈令和3年1月15日(東京)〉

長島 恭彦

剣道 5 段

〈令和3年3月7日

〈埼玉県立武道館〉

岸 輝卓(草加)
新村裕太郎(八潮)
篠田 雅士(越谷)
品田 真洋(吉川)
島野 貢多(川越)
勇 博文(川越)
田島 大路(西入間)
三好 俊成(東松山)
工藤 礼佳(東松山)
花見ゆい絵(蕨)
鈴木 悠太(朝霞)
越澤 薫(朝霞)
大岡 敬一(浦和)
高野 隼(大宮)
石澤 俊之(大宮)
岡安 倫代(上尾)
和田 裕一(上尾)
岩田健太郎(深谷)

〈令和3年7月10日

〈埼玉県立武道館〉

時安 紘平(草加)
堀江 慎一(草加)
中村 直樹(越谷)

田伏 義徳(越谷)
土田 翔平(吉川)
廣木 昭仁(春日部)
村山竜一郎(春日部)
齋藤功太郎(久喜)
橋本 武士(加須)
大川 元(羽生)
野原 正和(所沢)
武藤 大輔(所沢)
大塚 定美(川越)
岡 遼平(東松山)
有賀 史子(東松山)
島田 仁(小川)
坂本由紀夫(小川)

河口 幸洋(川口)
木下 弥(川口)
小関 要作(朝霞)
貴田 謙一(浦和)
三友健太郎(大宮)
松本 繁(大宮)
松崎 一洋(大宮)
森 将志(上尾)
飯野 忠剛(上尾)
和田 浩一(上尾)
大野 敏明(上尾)
相川 隆弘(本庄)
新井 康幸(秩父)
井陽 敏幸(小鹿野)

〈令和3年11月6日

〈埼玉県立武道館〉

田伏 優治(草加)
白鳥 一樹(越谷)
鈴木 英人(吉川)
吉田 康司(吉川)
白石 昌樹(吉川)
橋本 和博(吉川)
松下 睦(春日部)
浦田 楓(久喜)
島野 瑞穂(行田)
新井 浩(西入間)
河井 豊子(狭山)
池田 康平(川越)
神田 行治(川越)
菅野 誠也(東松山)
宮村 昇(川口)
坂本 汀(朝霞)
楠本 宏(朝霞)
渋谷 修(朝霞)
和田 雅子(朝霞)
鈴木 雄介(浦和)
新川 久美(浦和)
播磨 進(浦和)
埜口 志穂(大宮)
小林 隆司(大宮)
古高 昇始(大宮)
堀江 雅広(大宮)
岩崎 竜大(上尾)
高橋 昌樹(上尾)
林 茂裕(上尾)

内田 朋宏(鴻巣)
浅香 論(熊谷)
小川 秀治(熊谷)
熊谷 秀樹(熊谷)
石川十茂文(熊谷)
中村 芳子(本庄)
本橋 明(秩父)
中村 航(警察)
玉谷 謙怜(警察)
齋藤 純一(高校)
青山 洸(高校)

居合道 5 段

〈令和3年4月4日

〈埼玉県立武道館〉

玉光 弘和(浦和)
長谷川美喜男(久喜)
打越幸一郎(川口)
福田 勝彦(東松山)
上ノ段恵美子(川口)

〈令和3年10月3日

〈埼玉県立武道館〉

伊藤 裕基(川越)
川端 貴雄(秩父)
三山 斎(大宮)
千賀 徳一(浦和)
米山 幸枝(飯能)

杖道 5 段

〈令和3年10月10日

〈埼玉県立武道館〉

武藤 圭輔
畑山 良一
島海 誠

剣道 4 段

〈令和3年3月7日

〈埼玉県立武道館〉

篠崎 富貴(草加)
西村 健一(草加)
山田 厚志(草加)
鈴木 凌斗(八潮)
恩田 拓海(八潮)
森 達也(八潮)
森 里美(八潮)
安井 飛鳥(越谷)
尾又 桐吾(越谷)
小川 広美(越谷)
高松 一輝(吉川)
浅野由香里(春日部)
滝沢 直人(所沢)
元井 大和(狭山)
石川 万尋(川越)
亀田 太一(川越)
大橋 拓真(川越)
末田 敏雄(川越)
古賀 恵弥(東松山)
秋山 真寛(川口)
今井 風樹(朝霞)
安河内和己(朝霞)

安河内拓己(朝霞)
畑中 雄太(朝霞)
佐藤 迅(浦和)
松苗 将史(浦和)
都丸 慶太(大宮)
堀田慎一郎(大宮)
宮嶋 誠彦(大宮)
土井 大紀(上尾)
野澤 幸子(上尾)
菊地 衿花(熊谷)
伊東 颯真(熊谷)
中嶋 仁(熊谷)
廣瀬 達志(本庄)
大澤 友佳(秩父)
丸地 隼(大学)
太田垣晟也(大学)
関口 議正(大学)
川井あかり(大学)
佐藤 光敏(大学)
五十嵐洋介(大学)

〈令和3年7月10日

〈埼玉県立武道館〉

田上 詩織(草加)
小川 響生(草加)
大熊 僚太(草加)
天野 将太(越谷)
入内島大裕(吉川)
堀切 眞弓(吉川)
突元 太郎(春日部)
近藤 直樹(春日部)
鈴木 一広(杉戸)
大橋 重典(久喜)
池澤 優(羽生)
岡村 隼志(行田)
田窪 青也(所沢)
小林 正美(所沢)
杼原 大貴(狭山)
定 夢人(入間)
鈴木 佑記(川越)
蒔苗 駿介(朝霞)
秋山達之介(朝霞)
戸塚 亮(大宮)
小菅 勇毅(大宮)
本原 大将(大宮)
山口 杏南(上尾)
石渡 遼(上尾)
大久保和廣(上尾)
岡田 眞一(上尾)
金田 絵里(上尾)
小林 賢新(鴻巣)
若林 佑(本庄)
竹内 大貴(大学)
菊地 実桜(大学)
小林 美智(大学)
長嶋 丈寛(大学)
平尾 早希(大学)
高原 璃子(大学)
三瓶 清大(大学)
井上 綾斗(大学)

〈令和3年11月6日

〈埼玉県立武道館〉

廣瀬 朱音(越谷)
土井 晴祐(越谷)
清水 翔太(越谷)
竹矢 泉(吉川)
竣介(吉川)
黒木 美雪(吉川)
島田 武志(吉川)
花屋 大悟(春日部)
杉浦 弘紀(春日部)
片山 佳美(春日部)
小坂 達哉(久喜)
嶋村 優(久喜)
岩上 正弘(久喜)
安住 幸恵(久喜)
達紀(久喜)
川原 陽武(久喜)
川島寛一朗(幸手)
弓矢 一(加須)
川村 知(所沢)
志村 淳(所沢)
門間 光児(川越)
野田 薫(川越)
土屋 成史(川越)
岡 智哉(飯能)
伊井 彩乃(西入間)
菅野 若奈(東松山)
大松 卓(東松山)
白倉 暖乃(川口)
奥村 真尋(川口)
貝原 剛(川口)
栗原 正史(川口)
藤田 知貴(戸田)
内田貴美子(戸田)
黒田 哲秀(朝霞)
井上 義規(朝霞)
都丸 琳子(浦和)
安村 侑大(浦和)
谷之口修平(浦和)
山田 直人(浦和)
峯岸 純子(浦和)
高野 康平(大宮)
藤田 鈴(大宮)
梅宮 穂花(大宮)
狩野 泰征(大宮)
岩崎 萌(大宮)
大澤 太陽(鴻巣)
齋藤 廣一(鴻巣)
有賀 常悠(鴻巣)
鈴木 悠誠(北本)
新井 雄大(北本)
若松 将輝(北本)
長島 俊介(北本)
古田 卓也(北本)
栗岡 颯実(熊谷)
西川 達(寄居)
飯山 剛(警察)
宮沢 彩夏(警察)
小林 敏浩(警察)
木村 文憲(高校)

岩田 芽依(大学)
小嶋 紅音(大学)
石原 花莉(大学)
辻 航世(大学)
加藤 至恩(大学)
山田 茉実(大学)
高橋知沙都(大学)
根岸 美月(大学)
勝見 大学(大学)
保谷 雄斗(大学)

居合道 4 段

〈令和3年4月4日

〈埼玉県立武道館〉

板東 紘希(浦和)
中島 邦仁(幸手)
渡邊 良人(川口)
神 英雄(大宮)
松井 明男(越谷)
千代間雄慈(大宮)
福井 清正(鴻巣)
深澤 範光(所沢)
清水 由貴(西入間)

〈令和3年10月3日

〈埼玉県立武道館〉

阿久澤和紘(越谷)
Arshia Hematpoor
(小川)

貴田 謙一(浦和)
佐藤 豪(草加)
岸 健一(西入間)
藤田 啓一(所沢)
岡田 和雄(鴻巣)
坂本 嘉寿(鴻巣)
阿久津 廣(川越)
水森 功博(所沢)
高橋 利行(幸手)
都丸 琳子(浦和)
佐藤 敦子(上尾)

杖道 4 段

〈令和3年3月14日

〈埼玉県立武道館〉

齋藤 浩
三角 幸生
深田 武夫
山口 隆一
勝呂 俊一
青木 四郎
中島佑規子

〈令和3年10月10日

〈埼玉県立武道館〉

伊藤 貴広
堀 潤
石塚壽一郎
小西 亮
西島 康徳
近藤 伶子

編集後記

今号は、大河ドラマで脚光浴びている「渋沢栄一」翁について、菅原政昭先生にご寄稿をお願いいたしました。快くお引き受けいただき感謝申し上げます。

今年度連盟役員の改選により広報部は2名の異動がありました。新たな気持ちで努めてまいりますので皆様のご協力をお願いします。(浅見)